埼玉県ＩＣＴ活用　実践事例

ＩＣＴで　授業　をＤＸ！

学年　小学校６年　　教科など　特別の教科道徳

AIﾃｷｽﾄﾏｲﾆﾝｸﾞで、全体の思考の傾向を可視化！

使用するアプリケーション等
・Google Forms
・Google Jamboard
・User Local AIﾃｷｽﾄﾏｲﾆﾝｸﾞ

単元・題材　主題名「分かり合う喜び」教材名「ブランコ乗りとピエロ」

本時の目標　自分と異なった意見を受け止めるピエロの心情を通して、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする道徳的心情を育てる。

ＩＣＴを活用することで　できること
・AIにより、全ての児童の思考の傾向を即時に「可視化」と「共有」ができるようになる。
・即時にデータが得られることで、より多くの児童の考えを生かしながら授業展開が可能となる。
・自分の考えを発言することが難しい児童にとって、画面上に自分の意見が取り入れられるため、主体的に学習に取り組む態度の育成につながる。

ＤＸ前（ＩＣＴを使っていなかった頃は・・・）

1　導入
① アンケート結果を振り返る。
- 事前に道徳的価値に関わるアンケートを取り、結果をまとめておく。
- アンケート結果を導入で示し、問題意識をもたせる。

② 本時の課題を知る。
「分かり合う喜びとは何だろう。」

2　展開
① 資料「ブランコ乗りとピエロ」を読んで話し合う。
「自分の出番を奪われたピエロはどんな気持ちだっただろうか。」
「何を見てピエロのサムを憎む気持ちは消えたのだろうか。」
「ピエロとサムの関係はどのように変わったのだろう。」
「２人の関係を変えたものは何だろうか。」
- 各発問に対して一部の児童の発言を、黒板に板書したり、数名の他児童に意見を求めたりする。

3　まとめ
① 今までの自分の生活を振り返る。
「あなたなら自分と考え方の違う友達と付き合うとき、何を大切にするだろう。」
- 道徳ノート等に記入をさせる。
- 一部の児童を指名し発表させ、意見を交流させる。
- 授業時間後にノートを見取る。

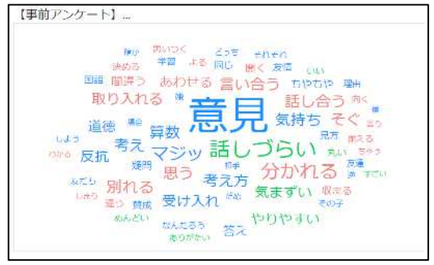
② 教師の説話

DX!

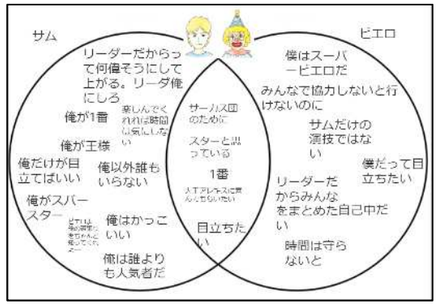
ＤＸ後　（赤字はICT活用場面）

1　導入
① アンケートをとって、結果から問題意識をもつ。
「学習活動や係活動といった、学校生活の中で「友達と意見が分かれたとき」に、あなたはどんな気持ちになりますか。」
- ねらいとする道徳的価値に関わるアンケートを導入でGoogle Formsで回答させる。
- 児童の回答した文章をAIテキストマイニングで読み取らせる。
- 回答内容の傾向を分析した結果を即時に提示し、全体で分析結果を考察し、問題意識をもたせる。

② 本時の課題を知る。
「分かり合う喜びとは何だろう。」

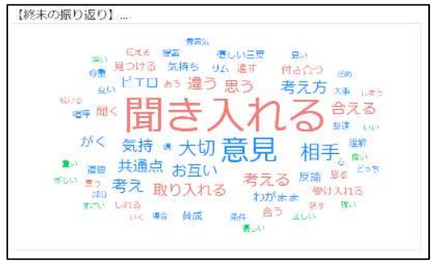


2　展開
① 資料「ブランコ乗りとピエロ」を読んで話し合う。
「自分の出番を奪われたピエロはどんな気持ちだっただろうか。」
「何を見てピエロのサムを憎む気持ちは消えたのだろうか。」
「ピエロとサムの関係はどのように変わったのだろう。」
「２人の関係を変えたものは何だろうか。」
- Google Jamboardに全児童の意見を書き込ませ、全体の意見を同時に共有させる。
- Google Jamboard上にある全体の意見を見て、お互いに考えを交流させる。
- Google Jamboard上にある書き込み内容をもとに、適宜指名して意見を交流させる。
- 多くの児童の意見を取り入れた授業展開で、児童の自己有用感を高めさせる。



3　まとめ
① 今までの自分の生活を振り返る。
「あなたなら自分と考え方の違う友達と付き合うとき、何を大切にするだろう。」
- 質問に対して、Google Formsで回答させる。
- 児童の回答した文章をAIテキストマイニングで読み取らせる。
- 回答内容の傾向を分析した結果を即時に提示し、全体で分析結果を考察し、考え方を交流させる。

② 教師の説話



授業者から（成果・課題・留意点）

一人一台端末でのICTの活用により、全ての児童の思考をリアルタイムで共有・可視化できるようになり、瞬時にデータが得られることで、より多くの児童の考えを取り入れた授業展開が可能となった。発言することが苦手な児童にとっても、自分の意見が取り入れられるため、児童の主体的に学習に取り組む態度の育成につながった。しかし、タイピングが苦手な児童に配慮する必要がある。

また、授業前後で思考の変化を比較できるよう、質問の内容を精査したり、分析結果を生かした授業展開を工夫したりすることが今後の課題である。